

石クリ通信

11月号

自分の判断が間違っていることもある

院長 石川 悟

図の二つのテーブル天板の形が同じ、と言われて、信じられるでしょうか。青山学院大学鈴木宏昭教授の「認知バイアスとは何か」(月刊保連2022年9月)の記事から引用したものです。図をコピーして天板の部分を切り取ってみると、まったく同じ形であることがわかり、唖然としてしまいました。

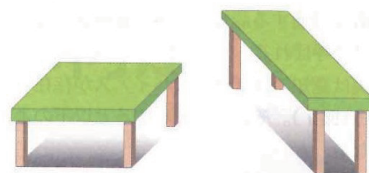


図2 シェパードの錯視(NTTイリュージョンフォーラムより)

「百聞は一見に如かず」と言われていきます。自分で実際に見たことが正しいと信じるのは、当たり前のことだと思います。しかし見え方や感じ方がいろいろな影響をうける(バイアスがある)のも事実です。これは絶対に正しいと主張する前に、その情報が入るまでよく考えてみるか、歪められていないか、など常に疑問の余地を残して判断する必要があると感じました。インターネットの記事などを読むと、わざと人の錯覚や誤解を招くような悪意のある情報発信も少なくありません。情報があふれる現代では情報リテラシー(情報を適切に判断し受け取る)能力がますます必要になって来ると思います。

ちよつと嬉しくなりました

事務 森 多加子

どこのお宅のお母さんも毎日の献立に苦労していると思います。『今日の夕ご飯、何にしよう。あゝ面倒くさい。』とぼやいてしまいます。先日、夕ご飯を食べていると長男が『なんだかんだで、お母さんが作るご飯がいちばん美味しいよね。』と言うと、次男も『だよな。』と嬉しくてニンマリしてしまいました。ごはんな作り、頑張れそうです。

断捨離

看護師 澤田 彰子

休みの日はいつも「片付けるぞー」と意気込んで部屋の掃除に取り掛かるのですが、気がつくとなにがあったものが下にいつて、下にあったものが上にいくだけでなかなか捨てること出来ません。必要な物がさつと取り出せる片付いた部屋になれるのはいつやつてくるのだろうか・・・こんまり。

幻視と想像力

事務長 石川 都

先日の天声人語に興味深い本の記事が載ったので、その本を読んでみた。「麒麟模様の馬を見た」という題のその本は、レビー小体型認知症の人が見る幻視を絵本にしたものである。著者の三橋昭氏は、六九歳の時にレビー小体型認知症と診断された。レビー小体型認知症とは、通常の認知症に多い記憶障害があまり目立たない一方で、視空間認知などの機能障害、特ににはつきりとした具体的な幻視が大きな特徴とされる。

三橋さんも、朝目覚める寸前に不思議なものを見る。洗濯ハンガーにぶら下がる小人、花びらを吹き出すエアコン、巨大な靴を被った骸骨、そして本の題である麒麟模様の馬などである。若い頃映画監督もした三橋さんはここで、せっかく見えた幻視を何とか絵に描きとめようとする。ほんの数秒で消えてしまう絵を描くのは難しかったが、本人曰く、毎朝が楽しみで「幻視のおかげで退屈知らずの日々を送っています」とのこと。味のある絵は本やカレンダーとしても出版され、個展も開いた。負のイメージの強い認知症も、向き合い方によっては、その症状を面白がり、想像力の場として生かすこともできるのである。

病気を隠さず冷静に受け入れ、今の状況を楽観的に捉えて創意工夫で改善しつつ、新しい出会いや体験を積極的に楽しもうとする、著者の前向きな姿勢には頭が下がった。私の知人は同居する義母の幻視に付き合ひ、白いポットを猫として共に抱き、可愛いですね。向こうに行きましたよ。など話を合わせていた。私はその時これぞ理想的介護だと思ったことを、今回改めて思い出した。

今年のハロウィン

看護師 太田 小百合

コロナが少し緩和されたこともあって、今年は「ハロウィンアフタヌーンティーセット」とおしゃやかな名前につられ、○○プラザホテルに行つて食べて来ました。ずつとながめていたかったのですが、せっかくなので全部食べちゃいました。ピーカンナッツとメレンゲを載せた「パープルポテト モンスター」(手前のも)が一番おいしかったかな。甘いお菓子と紅茶のよい香りにつつまれて、幸せなひと時でした。



皇帝ダリア

看護助手 柴田 さち子

六月頃、家の側の土手に苗木が植えられていました。誰が植えたのかわかりません。六月から十月頃まで、茎だけどんどん伸び、一向に花の咲く気配がありません。十月後半になり、先の方に花の芽が見えるようになります。だんだんつぼみも大きくなり、空にそびえています。咲いた花の素晴らしさが、私たちの気持ち癒してくれました。



秋晴れが待ち遠しい

事務 吉田 政子

秋の長雨の季節になり、最近曇りや雨の日が続き日光不足だなあ思っていました。そんな中やつと太陽が顔を出したある日、私はこの時とばかりにせつせと洗濯機を回し布団を干し、家の中の布類を外に所狭しと干し尽くし満足してほっと一息つき、ふつとベランダの隅に顔を向けるとわが家のペットの「かめこ」の姿が目に入りました。顔の脇に前足をピンと伸ばし、後足はしつぽの脇にピンと伸ばし、まるで野球の選手が一塁にヘッドスライディングしたような体勢で、首も前足も後足もしつぽさえも、こんなに長かったのと感じるほど伸ばしながら、甲羅干しをしていました。どうやら、我が家が太陽の陽射しを待っていたのは、私の他にもう一匹いたようです。

アクティブひたち始動！ 広報・事務長代理 石川 香

9月1日に『アクティブひたち』という政治団体を院長と一緒に立ち上げました。二〇二三年四月の統一地方選挙(市議会選挙)を見越してのことになります。長女の出産を機に、自然の多い場所でのびのびと子育てをしたいと日立にUターンしてきました。近年、日立は子育てに力を入れていて、過ごしやすいい街だとは思いますが、都心や県南と比べるとまだまだ遅れている政策もあります。更に日立市議会委員に、現役子育て世代、女性が少ないことなどで、声が届きにくくなっているのではと思います。活動を始めたいことを決意しました。詳細は院内のパンフレットや、QRコードからウェブサイトをご覧ください。

